

# 平成28年度「東京アスリート認定選手」 認定式・研修会【第1回】 次第

日時：平成28年6月26日（日）14時00分から  
会場：東京都庁第一本庁舎5階 大会議場

## 1 認定式（14時00分）

- (1) 開会
- (2) 国歌斉唱・都歌斉唱
- (3) 主催者紹介
- (4) 認定証授与

オリンピックを目指す選手 代表 しおさき塩崎 ゆい優衣(ラクビーフットボール)  
パラリンピックを目指す選手 代表 やす安 なおき直樹(車いすフェンシング)

- (5) 主催者あいさつ

しおみ きよひと塩見 清仁 (オリンピック・パラリンピック準備局長)

- (6) 認定選手決意表明

オリンピックを目指す選手 代表 かみや とおま紙屋 十磨(ウエイトリフティング)  
パラリンピックを目指す選手 代表 せりゅう瀬立 モニカ(カヌー)

- (7) 閉会

- (8) 記念撮影

## 2 研修会（14時30分）

テーマ 「2020年を目指すアスリートに求められること」

講師 かつ た たかし勝田 隆氏

(NTC 副センター長、JSC スポーツ・インテグリティ・ユニット長)

## 3 終了（15時30分予定）

## 【研修会】

# 「2020年を目指すアスリートに求められること」

ナショナルトレーニングセンター/JISS副センター長

JSCスポーツ・インテグリティ・ユニット長

かつた たかし  
**勝田 隆 氏**

### 【主な活動歴】

- スポーツにおける「インテグリティ（高潔さ・倫理観）」に関わる講演等の実績多数
- 平成 21～22 年度 東京都ジュニアアスリート発掘育成事業「スポーツ教育プログラム」講師（当時：仙台大学教授）
- ラグビー高校日本代表監督、元ラグビー日本代表強化委員長、日本ラグビー協会理事
- JOC本部役員として五輪帯同

※JSCスポーツ・インテグリティ・ユニット長  
スポーツの根幹を否定する様々な脅威（暴力、ハラスメント、ドーピング、八百長・違法賭博、中央団体のガバナンス欠如等）からスポーツを守るための活動を推進。

# Integrity

「経営管理者が学ぶことのできない資質、習得することができず、もともともっていなければならない資質がある」  
「それは、才能ではなく真摯さ（インテグリティ）である」ピーター・ドラッカー

勝田 隆

## 1. はじめに

近年、スポーツにおけるドーピング、違法賭博や八百長、試合の不正操作、暴力、諸団体のガバナンス欠如などが、スポーツの価値を脅かすものとして、国内外で大きな問題となっている。これらの諸問題は、アスリートやチームはもちろんのこと、そこに関わるスタッフや所属団体など組織にも大きなダメージを与える。

これは、観客動員数、競技人口の減少や関連する収益の低下などといった有形のものから組織のイメージや社会的な存在価値といった計算できない無形のものまで広範である。もちろんこれらの影響は一つの組織、競技団体にとどまらずスポーツ全体に波及することになる。このような状況下において、スポーツの価値を守るという意味から、「インテグリティ (integrity)」という言葉が、ヨーロッパを中心として用いられるようになり、その言葉と概念、そしてその名のもとに展開される活動は、昨今、国内外において広がり始めている。

このような背景を足掛かりに本稿が、インテグリティ (integrity) という言葉の概念やスポーツ界の現状との関連性、さらに、スポーツの未来を見据える手がかりとなれば幸甚である。

## 2. 「インテグリティ」という言葉について

そもそも「integrity (インテグリティ)」とは、どのような意味の言葉なのか。

辞書の記載内容を見ると、「一般的に『高潔さ』『誠実さ』などと訳される英単語」であり「日本語訳が非常に難しい単語」として知られている。さらに、「ラテン語の『integer (完全な)』」という単語に由来し「語源を辿ると、『触れられていない』『無傷な』というニュアンスの言葉 (オンライン英語辞書, Weblio 研究社)」であると記述されている。

また、「誠実であるとともに強固な倫理原則を維持できている状態」、あるいは、「構造における統一性またはサウンドの健全な状態 (オックスフォード英語辞典)」といった記述も見られる。

さらに、IT分野においては「誠実、正直、完全(性)、全体性、整合性、統合性、などの意味を持つ英単語であり、システムやデータの整合性、無矛盾性、一貫性などの意味で用いられることが多い(IT用語辞典e-words)」との記述もある。

また、その言葉が用いられる領域は広範囲にわたっている。いくつかを例示すると、マネジメント理論の第一人者として著名な、ピーター・ドラッカーは、「インテグリティ」の定義が困難であることを指摘し、「経営管理者が学ぶことのできない資質、習得することができず、もともともっていなければならない資質がある」「それ

は、才能ではなく真摯さ (インテグリティ) である」と述べている。

加えて、「インテグリティの本来の意味は『言うこと』と『行うこと』が一貫し、そこにぶれが無いということ (高 巖)」、あるいは「インテグリティが、人間としてのぶれない軸をつくる (ヘンリー・クラウド)」といった概念も見られる。

さらに、情報技術の分野においては、インテグリティは「システムやデータの整合性、無矛盾性、一貫性などの意味で用いられることが多く、装置の障害やソフトウェアのバグによって内容が失われたり、外部の攻撃者によって改ざんされたりすると、インテグリティが損なわれることになる (IT用語辞典e-words)」といった人間性や人格を示すそれとは異なる概念も見られる。

このように「integrity (インテグリティ)」という言葉は、日本語訳が非常に難しい単語であることはここに示したとおりであるが、いずれにしても、この言葉は、品格や高潔性、真摯さや正直さといった人間の人格や行動の根幹を成す重要な資質を意味する言葉であり、また、(システムやプログラムの構造を含む) 組織の機能やあり方が健全に保たれている状態を意味する言葉と捉えられる。

## 3. 2020に向けて、2020を越えて

私たちが熱い思いを持つスポーツの祭典、オリンピックやパラリンピックも、19世紀から20世紀にかけて世界の人々の英知と協働によって形作られてきたものである。その柱となる「オリンピズムの根本原則」には、「オリンピック憲章に規定される権利と自由の享受は、人種、肌の色、性別、性的指向性、言語、宗教、政治や他の見解、国又は社会的な出自、財産、家柄又はその他の地位などのいかなる形態の差別なく、保障されるものとする。」との理念が謳われている。このことはスポーツがインテグリティを内包するばかりか、それを具現化するための一つのキーワードであることの証左となる。

2020年に開催されるオリンピック・パラリンピック大会を、高潔さを堅持し、公平さを保証する大会にすることは、日本に対する世界の信頼と期待であり、また日本が世界と交わした約束でもあると、私は考えている。その実現に向けた具体的な取り組みのために、「インテグリティ」は、ホスト国が高く掲げるべき旗印となる。それとともに、この「インテグリティ」が完全に保たれる大会を開催するためのムーブメント、これに実効性を持たせるためのシステムの構築と、その確実な駆動、これらは2020年の大会の大きなレガシーとなるだろう。

(勝田隆:「現代スポーツ評論」創文企. 2015. 5月号)より抜粋)

# 「めざす」と「ねらう」

勝田 隆

私は、「メダル獲得を目指す(めざす)」という言い方と、「メダルを狙う(ねらう)」という言い方では、取り組みの姿勢や、目標までの距離感などに違いがあると思っている。これは、あくまでも個人的なイメージであるが、前者の言葉には、「願望」の響きが強く、後者は、射程圏内にあるという前提のもとに発せられているように思う。

辞書には、“めざす”は「目当てとして見る」「そこを目標として進んで行く」とあり、“ねらう”は「目標に命中させようとして、弓などを構え、照準を定める」などと書かれている。つまり「めざす」より「ねらう」の方が、より具体的であり、現実的かつ客観的な目標設定がなされていると推察できる。

このことから、単に目指す者より、真に狙う者の方が、良い結果を得ることになるだろうというのが私の見方だ。

だから、私は、「世界を目指すアスリート」には、「世界を狙うアスリート」に育ててほしい、「目指すだけ」で終わってほしくない願っている。

しかし、「狙う」レベルに達するためには、まず初めに決めなければならないことがある。そして、しっかりと学ばなければならないことがある。例えば、「どの種目でメダルを目指すのか」、あるいは「どの大会でメダルを目指すのか」について決めておかなければならないし、「社会のロールモデルとなるアスリートに求められるモラルや行動」などを学んでおかなければならない。

もちろん目指す道のりに必要な準備を整えるためには、「練習拠点」や「コーチングおよび情報・医・科学サポートの内容」などを具体的に決めなければならない項目も存在する。

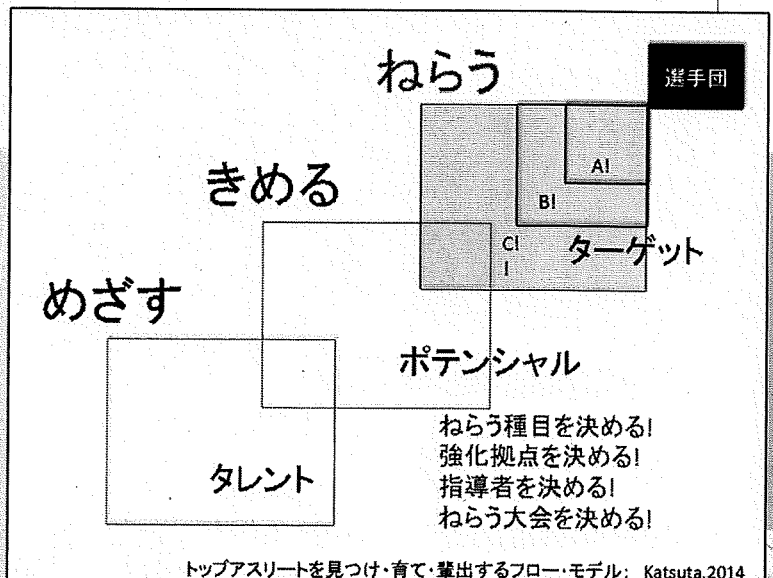
このような段階を踏まなければ、しっかりとしたトレーニング計画を立てることもできないし、練習を積むこともできない。また、日々の取り組みの評価を次に活かすこともできないだろう。つまり、目標の設定には順序や段階が必要なのである。

メダル獲得を本気で「ねらう」ために、決めるべきことを確かめ、覚悟をもって「ねらう」に向かう。

しっかりと準備し挑戦し続けた者だけが、世界の舞台に立つことができる。

私たちは、未来に向けてチャレンジする若きアスリートたちが、「メダルを狙う」と目を輝かせて言葉にしてくれることを楽しみにしている。

そのためのサポートを、スポーツ界一体となって連携し、推進させていきたい。



勝田 隆  
国立スポーツ科学センター副センター長、ナショナルトレーニングセンター副センター長  
スポーツ開発事業推進部長

平成28年度「東京アスリート認定選手」(オリンピックを目指す選手)認定一覧

【計102名】※競技ごと50音順

選手No.	競技名	氏名	選手No.	競技名	氏名
1	陸上競技	エドバー イヨバ	51	ハンドボール	杉岡 尚樹
2	陸上競技	大嶋 健太	52	ハンドボール	友兼 尚也
3	陸上競技	大野 優衣	53	ハンドボール	藤 勢流
4	陸上競技	北村 夢	54	ハンドボール	水町 孝太郎
5	陸上競技	サニブラウン アブデル ハキーム	55	ハンドボール	吉野 樹
6	陸上競技	橋岡 優輝	56	自転車競技	岡本 二菜
7	スキー	石渡 実香	57	自転車競技	佐宗 恭
8	スキー	一ノ瀬 丞	58	自転車競技	花田 聖誠
9	スキー	鈴木 一生	59	自転車競技	古山 稀絵
10	スキー	康野 瑛嗣	60	自転車競技	前田 公平
11	スキー	山口 ゆい	61	自転車競技	松本 詩乃
12	ボート	江島 凜斉	62	卓球	加藤 美優
13	ボート	坂上 照英	63	卓球	羽佳 翔鵬
14	ボート	佐藤 紫生乃	64	卓球	穂積 和也
15	ボート	高野 勇太	65	フェンシング	ガッツチョーク ジュリアン
16	ボート	土屋 愛	66	フェンシング	川村 京太
17	ボート	中川 大誠	67	フェンシング	敷根 章裕
18	ボート	中村 澄人	68	フェンシング	杉本 隆大
19	ボート	林 靖晴	69	フェンシング	原田 紗希
20	ボート	藤田 彩也香	70	フェンシング	メンドーザ ミゲール
21	ボート	安井 咲智	71	ライフル射撃	池上 啓
22	体操	亀井 理恵子	72	ライフル射撃	生駒 早織
23	体操	桐生 莉沙	73	ライフル射撃	今仲 章
24	体操	中澤 怜那	74	ライフル射撃	岩楯 豪志
25	体操	仲宗根 華乃	75	ライフル射撃	小池 みのり
26	体操	藤田 隆之介	76	ライフル射撃	佐野 嘉信
27	体操	森田 真由	77	ライフル射撃	田中 貴久
28	レスリング	阿部 敏弥	78	ライフル射撃	津場 恭平
29	レスリング	今村 太陽	79	ライフル射撃	猶村 洋
30	レスリング	梅林 太朗	80	ライフル射撃	林 龍一
31	レスリング	岡嶋 勇也	81	ライフル射撃	松島 愛
32	レスリング	乙黒 拓斗	82	ライフル射撃	三島 裕介
33	レスリング	近藤 雅貴	83	ライフル射撃	安田 堇
34	レスリング	榊 流斗	84	ライフル射撃	柳川 由太郎
35	レスリング	長谷川 敏裕	85	ラグビーフットボール	片岡 瑞帆
36	レスリング	三浦 庶宏	86	ラグビーフットボール	塩崎 優衣
37	レスリング	森川 海舟	87	ラグビーフットボール	竹内 彩貴
38	ウエイトリフティング	荒木 晴江	88	ラグビーフットボール	坪井 美月
39	ウエイトリフティング	伊藤 麻衣	89	ラグビーフットボール	平野 優芽
40	ウエイトリフティング	岩田 優	90	ラグビーフットボール	本堂 杏実
41	ウエイトリフティング	上野 祐脩	91	クレー射撃	柿原 健晴
42	ウエイトリフティング	紙屋 十磨	92	クレー射撃	柿原 康晴
43	ウエイトリフティング	小林 克己	93	クレー射撃	高安 儀和
44	ウエイトリフティング	ジェンディ 今夢	94	クレー射撃	柳 英志
45	ウエイトリフティング	高岸 冴佳	95	クレー射撃	横内 誠
46	ウエイトリフティング	東方 麻稀	96	クレー射撃	渡邊 賢次
47	ウエイトリフティング	松尾 侑宇大	97	トライアスロン	梅田 祐輝
48	ウエイトリフティング	安江 勇輝	98	トライアスロン	小田倉 真
49	ウエイトリフティング	安永 和詩	99	トライアスロン	佐藤 らら
50	ウエイトリフティング	吉野 千枝里	100	トライアスロン	スピヌソ 騎士
			101	トライアスロン	外山 高広
			102	トライアスロン	中山 彩理香



# 「東京アスリート認定制度」ホームページ

～ 2016/6/26 認定式後に開設 ～

東京都のスポーツ情報ポータルサイト「スポーツTokyoインフォメーション」内に「東京アスリート認定制度」専用ページを開設します。

専用ページでは、競技や地域で認定選手が検索でき、選手の競技実績やコメントをご覧いただけます。

今後は、認定選手の皆さんのインタビュー等を掲載していく予定です。

URL <http://www.sports-tokyo.info/tokyo-athlete>

## 「東京アスリート認定制度」専用ページ画面イメージ

東京アスリート認定制度

画面イメージ

ハキーム 選手 陸上競技(100m)

港区 豊島区

生年月日 1999/03/06

所属 国府大学附属国府高等学校

競技実績 世界ユース選手権優勝  
(2015)、全国障害者学校協会体育大会優勝  
(2015)、国体優勝 (2014)

本人コメント

2020年の東京オリンピックを目指して、日々トレーニングにはげめ、たくさん海外のトップレベルの試合などに出場し、経験も十分に積んだのちにベストな状態でオリンピックにのぞめたいと思います。東京オリンピックでは金メダルが取りたいです。

検索画面にもどる

東京都オリンピック・パラリンピック準備局